

数量関係①

第2学年

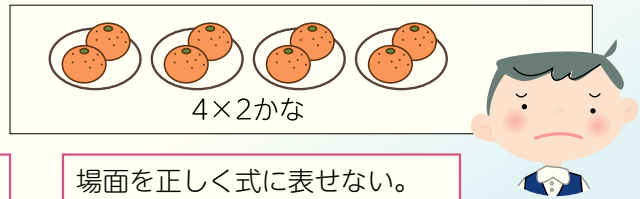
かけ算のもんだい作り

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

式から問題場面を想像できない。場面を正しく式に表せない。

問題：身の回りからかけ算になる問題をつくってカードにかきましょう。例) $2 \times 4 = 8$

単元の概要

目標

かけ算が適用される場面についての興味や意味を深める。

内容

※太字は次ページに詳細を掲載

- かけ算の意味や式のとよみ方、かき方
- たし算を活用したかけ算の答えの求め方
- 倍の意味、かけ算の九九
- かけられる数とかける数の意味
- **問題作り**

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容 (単元名)		つまずきの実態
中学校		関数の意味を理解し、表、式、グラフを相互に関連付けていろいろな情報を読み取ることができない。 ※中学校数学 p.47～54
第6学年	比例を使って	日常生活で、比例の関係を有効に活用していくことができない。
第5学年	小数×小数	図から比例関係をとらえ、式を立てることができない。
第4学年	式と計算のじゅんじょ	計算のきまりをどのように活用して計算の工夫をしたらよいのか思いつかない。
第3学年	わり算を使って	何倍という言葉と図を結び付けて式を立てることができない。
第2学年	かけ算のもんだい作り	式から問題場面を想像できない。場面を正しく式に表せない。
第1学年	けいさんのかみしばい	問題文と絵が対応しておらず、正しい作問ができない。 正しい図や立式で表すことができない。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

教師による例示、グループ活動、個人学習、全体学習の流れで行う学習形態の工夫

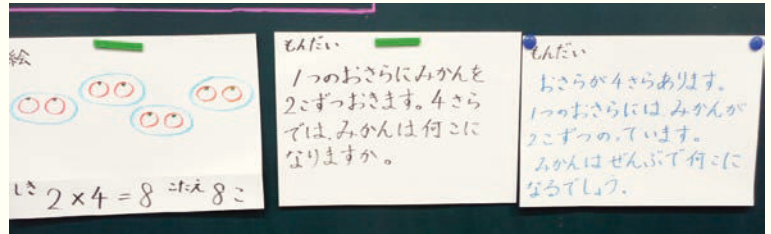
活動のねらい▶ 解決の方法を理解させることで、1つ分・いくつ分を意識した問題作りに結び付ける。

ここが
ポイント

課題をつかんだ後、自力解決の場面ではじめからグループ学習の形態をとることで、解決の方法をスムーズに理解させ、1つ分は何で、いくつ分あるのかを意識して問題を作ることができるようにする。

期待される児童の姿

問題作りを2パターンで例示し、問題場面と式とのつながりを意識させる。



1人で作ろう。
友達に問題を出すよ。



1つ分は何で、いくつ分あるのかを意識して問題を作ることができるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

他のグループや友達の作った問題を解いて、立式の理由をグループで伝え合う活動

活動のねらい▶ 問題場面と図と式を関連させながら、かけ算の意味についての理解を深める。

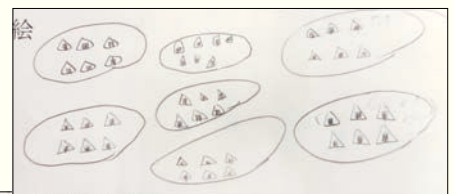
ここが
ポイント

「なぜその式になったのか、問題や図を使って説明しよう。」と問いかけ、場面と図と式をつなげて考えられるようにする。

期待される児童の姿



文と図から、1つ分は6個です。



おさがら7まいあります。さらにおにぎり6このっています。おにぎりは、ぜんぶで何こあるでしょう。

おにぎりは6個の7皿分だから、問題に出てくる順番とは違うけど、式は「 6×7 」になります。

被乗数と乗数に気を付けて、問題文や図から正しく立式できるようになる。